

## 28. ペッチャブリー県



ペッチャブリー県はタイ中央部のタイ湾に沿って位置しています。バンコクから西南に約123キロ離れています。長い歴史を持ち、スコタイ時代以前から古都として知られ、アユタヤ時代の主要都市として位置づけられました。

面積は6,255平方キロメートルです。

北はサムットソクラーム県とラーチャブリー県、南はプラチュアップキリカン県、東はタイ湾、西はミャンマーと国境を接しています。地形は西部では複雑に入り混んだ山々に囲まれ、タナーオ・シー山を境にタイとミャンマーとの国境を形成しています。県民の多くは農業を営み、水田、果樹栽培、砂糖生産及び漁業等に従事しています。

ペッチャブリー県には有名な観光スポットがたくさんあります。例えば、カオ・ワン歴史公園、92メートルの丘の上に遺跡があり、ヨーロッパ様式と中国様式の美しい宮殿や寺院等、多くの建物はラマ4世によって造られました。また、自然豊かな観光スポットとして美しいビーチが沢山あります。例えば、チャムビーチやサムランビーチなどです。他に、洞穴ではタム・カオヨーイとタム・カオルアンがあります。

その他、ゲングラジャンダムは発電、農業用水、魚の養殖などの為に造られた多目的ダムですが、現在ゲングラジャン国立公園は観光スポットの一つとして人気があります。2,915平方キロメートルの面積を有するタイ最大の広大な国立公園で、自然豊かな公園内には、川の水源となっている森、湖、滝、洞窟、と多くの断崖を見る事ができます。公園内では、自然をそのままいかし多くの野生動物が生息しています。

ペッチャブリー県へは、多くの観光客がおいしいお菓子を目当てにやって来ます。特にヤシの木の栽培地としてパームシュガーの生産地としてよく知られ、県内には特産のパームシュガーで作った美味しいお菓子売る店が沢山あり、その甘いお菓子は手土産として観光客に人気があります。

